

改善方策実施計画書

担当部局：スポーツ・健康科学部

責任者：スポーツ・健康科学部長

幹事：スポーツ・健康科学部事務室

2011年6月17日

認証評価指摘事項	【総評】「女子の入学比率を高める」および「中国以外の地域からの留学生の増加をはかる」という目標は、一部学科による女子高訪問や募集活動の実施にもかかわらず達成されていない					
点検・評価問題点	「女子の入学比率を高める」および「中国以外の地域からの留学生の増加をはかる」という目標は、一部学科による女子高訪問や募集活動の実施にもかかわらず達成されていない					
改善方策	4-28-3(新規) 女子の入学比率について学科ごとにデータ収集、分析を行い、比率向上について検討する。 中国以外の留学生増加については、交流協定を推進させる。					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
2010 年度実施計画		達成時期	2010 年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			
2011 年度実施計画		達成時期	2011 年度取り組み結果			
女子の入学比率について学科ごとにデータ収集、分析する。 中国以外の留学生増加については、交流協定に関するワーキンググループで検討する。		2012 年 3 月	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 女子学生の増加を図るため、過去には女子校訪問等を行ってきたが不十分であった。引き続き検討中である。			
2012 年度実施計画		達成時期	2012 年度取り組み結果			
女子入学比率について比率向上について各学科で具体案を検討する。 中国以外の留学生増加については、交流協定に関するワーキンググループから学科、学部へ具体案を提示する。		2012 年 10 月	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 引き続き検討する。			
2013 年度実施計画		達成時期	2013 年度取り組み結果			
女子入学比率について比率向上について各学科で具体案を検討する。 中国以外の留学生増については、学科に設置された国際交流委員会にて検討し、学科、学部へ具体案を提示する。			A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			
2014 年度実施計画		達成時期	2014 年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			
2015 年度実施計画		達成時期	2015 年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	【総評】「女子の入学比率を高める」および「中国以外の地域からの留学生の増加をはかる」という目標は、一部学科による女子高訪問や募集活動の実施にもかかわらず達成されていない
点検・評価問題点	「女子の入学比率を高める」および「中国以外の地域からの留学生の増加をはかる」という目標は、一部学科による女子高訪問や募集活動の実施にもかかわらず達成されていない
改善方策	4-28-3(新規) 女子の入学比率についてデータ収集、分析を行い、比率向上について検討する。中国以外の留学生増加については、交流協定を推進させる。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

「女子の入学比率を高める」について

スポーツ・健康科学部の 2011 年 4 月時点で学部全体の男女比は 57.7%(男子)対 42.3%(女子)であり、学科別では健康科学科 50.2%(男子)対 49.8%(女子)、スポーツ科学科 65.0(男子)%対 35.0%(女子)である。

この比率の妥当性を検証するには、学科別の志願者の男女比、他大学を含めた同分野の志願者の男女比等のデータ収集が必要である。これらのデータに基づき本学部の女子の入学比率が相対的に低いと判断した場合に「女子の入学比率を高める」ことを検討する。

「中国以外の地域からの留学生の増加をはかる」について

スポーツ・健康科学部では東アジア、欧米圏ともに交流協定校がないが、現在スポーツ科学科では中国以外の地域も含め、交流協定について検討中である。

所見	改善方策に関する記述がないため評価不能
----	---------------------

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

女子学生の増加を図るため、過去には女子校訪問等を行ってきたが不十分であったので、今後新たな方策を考慮したい。引き続き検討中である。

スポーツ・健康科学部での中国以外の留学生は0です。

所見	学生の学習環境という観点から見て、男女比の釣り合いが取れていることは好ましいことですので、今後も新たな対策を検討されることが望まれます。 ただし、専攻科目による男女比の不釣り合いはどの大学でもよくあることですので、まず（2010 年度の現状の説明にもあるように）学科別の志願者の男女比、他大学の同分野専攻学科での男女比を調査し、本学スポーツ・健康科学部の男女比が相対的に見て極端に不釣り合いなのかどうか検討すべきではないかと考えます。 中国以外の留学生の増加については、英文での広報活動や協定校の拡大も含む全学的な問題ではあります。しかし、各学科で個別に進められる方策（例えば、海外の類似専攻学科を持つ大学の調査など）もありますので、そのようなところから対策を始められることが望まれます。
----	---

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

女子学生の増加を図るため、過去には女子校訪問等を行ってきたが不十分であったので、今後新たな方策を考慮したい。引き続き検討中である。

中国以外の留学生については、2013 年 3 月オランダ シオス大学ノバ校との学術交流協定が締結され、交換留学生制度の実施に向けて検討を進めている。

所見	本学 HP 上に公開されているスポーツ健康科学部生の男女比を見る限り、女子学生の方が数が少ないものの、顕著な差は見られません。男女比問題については現状維持で問題がないと思われます。オランダの大学との学術交流協定の締結は大きな進展であり、今後交換留学制度の確立に向けて進展が期待されます。
----	--

改善方策実施計画書

担当部局：スポーツ・健康科学部

責任者：スポーツ・健康科学部長

幹事：スポーツ・健康科学部事務室

2011年6月17日

認証評価指摘事項	【総評】社会人入試を実施している学部もあるが、入学実績はほとんどない。					
点検・評価問題点	社会人入試を実施している学部もあるが、入学実績はほとんどない。					
改善方策	4・28・4(新規) 全学的な取り組みとして、ホームページ、大学案内(クロッシング)等で、社会人入試に関する情報を増やす。					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
2010 年度実施計画		達成時期	2010 年度取り組み結果			
			☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
			(B または C の理由)			
2011 年度実施計画		達成時期	2011 年度取り組み結果			
社会人入試の情報量を増やすことを入試委員会等で提案する。		10 月	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
			(B または C の理由)			
2012 年度実施計画		達成時期	2012 年度取り組み結果			
2012 年度入試で社会人入試を実施した。 2013 年用大学案内とホームページにて社会人入試の情報量を増加する。		2012 年度	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
			(B または C の理由)			
2013 年度実施計画		達成時期	2013 年度取り組み結果			
			☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
			(B または C の理由)			
2014 年度実施計画		達成時期	2014 年度取り組み結果			
			☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
			(B または C の理由)			
2015 年度実施計画		達成時期	2015 年度取り組み結果			
			☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
			(B または C の理由)			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	【総評】社会人入試を実施している学部もあるが、入学実績はほとんどない。
点検・評価問題点	社会人入試を実施している学部もあるが、入学実績はほとんどない。
改善方策	4・28・4(新規) 全学的な取り組みとして、ホームページ、大学案内(クロッシング)等で、社会人入試に関する情報を増やす。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

2011 年度入試にスポーツ科学科に 1 名の社会人入試による志願者があり入学した。本学部の場合、社会人入試志願者はこの事例のみである。

所見	社会人入学の実績も皆無ではないものと思われ、現状説明に含めるべきである。
----	--------------------------------------

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

2012 年度入試に健康科学科で 2 名の社会人入試志願者があり入学する予定である。2011 年度に引き続き社会人入試志願者（社会人入学者）があり、本学部の場合、社会人入試は定着しつつある。

所見	評価できる値です。広報活動、また既に実施されている地域との連携活動も含め、社会人入試の定着に向けてのさらなる活動が期待されます。
----	--

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

社会人入試制度を実施しており本学部の場合、社会人入試は定着している。

「2012年度入試にて、健康科学科では社会人入試志願者が複数あり入学したが、2013年3月時点で、それぞれ進級確定し精力的に就学を継続している。

なお、2013年度入試では応募者がいなかったが、引き続き社会人入試の定着に向けてさらに活動していく」

所見	今後とも社会人入学が定着するよう、クロッシングやHP上に、社会人入学者の声を反映させるなどの情宣活動が望まれます。
----	---

改善方策実施計画書

担当部局：スポーツ・健康科学部

責任者：スポーツ・健康科学部長

幹事：スポーツ・健康科学部事務室

2011年6月17日

認証評価指摘事項	【総評】退学者および除籍者が少なくないので、1、2年次生に対する学修指導・生活指導の徹底など、退学者を減らすための一層の努力が求められる。				
点検・評価問題点	退学者および除籍者が少なくないので、1、2年次生に対する学修指導・生活指導の徹底など、退学者を減らすための一層の努力が求められる。				
改善方策	4-30 欠席率の高い学生や成績不振の学生に対する教員カウンセラーを選定し、定期的にカウンセリングを実施する。				
計画	前期		中期		後期
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
					2015年度
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果		
1) 欠席率の高い学生や成績不振の学生を調査する。 2) カウンセリングを実施する。		2011.3	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 学科主任が退学および除籍を届け出た学生に対してカウンセリングが行われたが、対策としては不十分である。		
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果		
1) 欠席率の高い学生や成績不振の学生を調査する。 2) 教員カウンセラーを選定する。		2012.3	A 完全に達成	○ B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 学科主任及び学年担当教員が退学及び除籍を届けた学生に対してカウンセリングが行われたが、対策としては不十分である。		
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果		
1) 欠席率の高い学生や成績不振の学生を調査する。 2) 担当教員がカウンセリングを実施する。		2013.3	A 完全に達成	○ B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 学科主任及び学年担当教員が退学及び除籍を届けた学生に対してカウンセリングが行われたが、対策としては不十分である。		
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果		
1) 欠席率の高い学生や成績不振の学生を調査する。 2) 担当教員がカウンセリングを実施する。		2014.3	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)		
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果		
1) 欠席率の高い学生や成績不振の学生を調査する。 2) 担当教員がカウンセリングを実施する。		2015.3	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)		
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果		
1) 欠席率の高い学生や成績不振の学生を調査する。 2) 担当教員がカウンセリングを実施する。 3) 過去5年間の不登校や成績不振の調査・分析した結果に基づいた対策を実施する。		2016.3	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	【総評】退学者および除籍者が少なくないので、1、2年次生に対する学修指導・生活指導の徹底など、退学者を減らすための一層の努力が求められる。
点検・評価問題点	退学者および除籍者が少なくないので、1、2年次生に対する学修指導・生活指導の徹底など、退学者を減らすための一層の努力が求められる。
改善方策	4-30 欠席率の高い学生や成績不振の学生に対する教員カウンセラーを選定し、定期的にカウンセリングを実施する。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

退学および除籍を届けて出た学生に対するカウンセリングが主に学科主任が担当したが、対策としては不十分である。

所見	
----	--

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

これまでは学科主任が対応して退学及び除籍を届け出た学生に対してカウンセリングを行っていたが、それに加えて、1年生から4年生まで各学年担当教員を設置して、成績不振や学生生活不振と思われる学生に対して対応を取る体制を構築した。しかし、各学生の成績調査に関しては事務的な手続きとの関係もあって十分実施できているとはいえない。

2011 年度の退学者数（除籍者含む）は 16 名

所見	「退学及び除籍を届けた」段階でカウンセリングを行うのではすでに遅すぎるのではないかと危惧されます。 成績不振者、または欠席の多い学生への早期の対応が望まれます。 成績調査の事務的な手続きに関しては、東松山教務事務室と密接かつ迅速な連携が取れるよう、改善が求められます。
----	--

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

これまでは学科主任が対応して退学及び除籍を届け出た学生に対してカウンセリングを行っていたが、それに加えて、1年生から4年生まで各学年担当教員を設置して、成績不振や学生生活不振と思われる学生に対して対応を取る体制を構築した。しかし、各学生の成績調査に関しては事務的な手続きとの関係もあって十分実施できているとはいえない。

2012 年度の退学者数（除籍者含む）は 12 名

所見	スポーツ健康科学部は、全学的に見て在籍者数に対する退学・除籍者数の割合が少なく、比較的きめ細かい指導が出来ているのではないかと推測します。特に 1 年次のフレッシュマン・セミナーや健康科学基礎演習といった必修科目を通じ、各学生の学習状況や出席状況に関する情報を把握し、さらに退学者・除籍者が減るよう努力することが望まれます。
----	--